

みらくる

Mirakuru

2018年 8月 第31号

〈発行〉
社会福祉法人・NPO 法人 人権の会
しあわせネットワーク

〒620-0044
京都府福知山市字天田小字額田 426 番地
TEL0773-22-4659 FAX0773-22-4669
E-mail shiawase@kisnet.ne.jp

カラオケ 同好会!!



「カラオケ同好会」(H30.8.4)

暑中お見舞い 申し上げます

八月四日(土)午前、カラオケ同好会を開催しました。今回は職員を含む十三名が参加。夏休み中のせいか中高生の来場者が多く、三室で予約していた部屋は一部屋にまどめられていました。人数が多いため思う存分歌うことはできませんでしたが、皆で楽しい時間を共有することが出来ました。吉田さん独自の歌唱法、舞台に立ったような山中さんの熱唱、中垣さんの美声で聞かせる「ベギー葉山」や「美空ひばり」、國谷さんと金澤さんの息の合ったデュエット、画面の歌詞を追いかけて一生懸命歌う山下さん、新宮君や岡井君の歌う新しいアニメソング、持ち寄ったお菓子をつまみながらニコニコの玉木さん、締めくくりは福田さんのド演歌…(汗)。マラカスやタンバリンを手に、ストレス発散の半日となりました。

施設だより

ハートショップ

八月二日(金)中丹西保健所にて行われた「ハートショップ」の販売会に参加してきました。福知山市内の施設からそれぞれの授産品を持ち寄った販売会で、しあわせネット・勇気からも利用者の福田さん、小林さんの二名が売り子として参加。おからほつぺを中心に販売してきました。会場には他の施設の利用者さんからも多く訪れ、それぞれの販売の様子や他の施設の製品を見学されていました。



大学食堂部 「にじいろ食堂」

大学食堂部「にじいろ食堂」では、七月から八月にかけては例年高校生や一般客の来客数も増え、またこの夏は、週末の度に各団体による食堂・ホール利用や大学のオープンキャンパスなどが重なったため、利用者・職員ともに慌ただしい毎日が続きました。



大学食堂でのランチ提供の様子

七月後半からは新しい利用者の仲間も増え、より賑やかで明るい声が聞こえる厨房内では、皆で元気に今日も作業をしています。

後援会入会のお願い

障がい者施設の安定運営のために
皆様のご支援をお願いします。

社会福祉法人しあわせネットワークが運営する施設や各種事業をご理解いただき、会員として後援会にご入会くださいますよう、心からお願い申し上げます。

〈活動内容〉
各種イベントの開催、機関誌発行など

〈後援会費〉
年間／一口1,000円
年会費は機関誌発行、各種行事等に有効活用させていただきます。

多くの皆様のご支援・ご協力を
よろしくお願い申し上げます。

編集後記

「豪雨」「台風」さらには連日の「猛暑」。暑い夏は八月中続くとの天気予報です。豪雨により被災された皆様には心からお見舞い申し上げます、一日も早い復旧をお祈りします。

今回の「みらくる」には、四年前、私たちの施設の一部が被災したときの様子を掲載しました。当時は気が遠くなる復旧作業の毎日でしたが、述べ三四人の一人一人に助けて頂き感謝の日々でもありました。その感謝を忘れることなく、暑さ対策を十分にしながら、今年の夏を乗り越えたいと思います。



きょうされん第四十一回全国大会 in 京都の中丹ブロック仲間実行委員会が綾部の上杉体育館でありました。昨年十一月にスタートし、全国大会での仲間企画について検討を重ね、今回で六回目の会合となります。本番まで二か月を切って、企画の内容や役割分担は決まり、それぞれの練習や小道具づくりの段階に入っています。

今回は各係の状況報告と中丹ブロック担当のお神輿（大交流会で演じる劇の小道具）づくりがメインでした。段ボールで作った本体に紙や布を貼り付け、仕上げしていきます。このお神輿の屋根には新宮さんが制作している金の鳳凰が鎮座することになっており、大変

**いよいよです！
全国大会まであと僅か**

きょうされん「仲間実行委員会」

見応えのあるお神輿に仕上がるのは確実です。次回、八月末の会合にはほぼ完成という段階まで持って行けそうです。いよいよ全国大会が迫ってきたなあと感じる一日でした。



全国大会に向けた仲間実行委員会。準備も架橋に入りました。

利用者さんの声



おかい りょうた
岡井 亮太 さん (19歳)

僕は今年の四月から「勇氣」で働いています。作業は「おからほっぺ」のラベル貼りの作業をしています。ポーナズづくりでは新宮さんのイラストにニックネームをつけ、商品に同梱しました。とても好評でうれしいです。そして初めてポーナズがもらえてうれしいです。

利用者さんの声



さこぬま ねね
迫沼 寧々 さん (20歳)

中丹支援学校高等部卒業後、私は昨年四月から働いています。私の仕事場は、福知山公立大学内の「にじいろ食堂」です。私は主に「カレーライス」の提供をしています。お昼のピークが過ぎ、お客さんが少なくなる頃には「ほっと」して仲間の皆と一緒に昼休みをとっています。

**「豪雨・台風・猛暑」を乗り越えて
尊い生命を守る施設に。**

**生命を預かる施設として
万全な施設づくりを**

甚大な被害をもたらした豪雨（平成三十年七月豪雨）に台風十二号の発生、それに連日の酷暑と厳しい気候変動に振り回されている今年の夏。切っ掛けはやはり「豪雨」でした。七月五日から降り続いた総水量は、福知山市でも四〇〇ミリにも上り、内水氾濫を含め、土石流や崖崩れに鉄砲水や天然ダムの発生など予想を超えました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げると同時に、一日でも早い復旧をお祈りします。

さて、今回の豪雨や台風に猛暑を受けて、高齢者や障がい者の施設運営について考えてみます。まずは施設を利用されている全ての

方の安全対策が出来ているかという事です。低地にある施設では、その都度高台の施設に移動します。通所施設では送迎する道路が安全であるかを確かめてから行動を起こします。また猛暑の中での外出は出来るだけ抑えます。とくに、今回ほど「生命（いのち）」に関わる危険」という言葉が飛び交ったことはありません。豪雨や台風時の迅速な避難（先）と熱中症への予防、利用者の家族等の連携が生命線と考えます。私たちは、まだまだ続くと思われている猛暑と、これから本番の台風シーズンを乗り越えるために限りある尊い生命を預かる施設として「とに角、生きる」ための万全の心構えと対策が求められていることを痛感しています。



4年前の「平成26年8月豪雨」による被災の様子。ゴミや泥などで溢れ返りました。



復旧作業には後援会の皆様はじめ、地元高校生など多数の方が応援に駆けつけてくれました。